頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム
—アジア・アフリカ持続型生存基盤研究のためのグローバルプラットフォーム構築—
報告書

アジア・アフリカにおける持続型基盤の発展に寄与する ものつくり研究の可能性

派 遣 者：金子　守恵
派遣期間：2013 年 2 月 28 日～3 月 25 日
派 遣 先：アジスアベバ大学南オモ研究所（エチオピア連邦共和国）

キーワード：博物館，特別展示，カタログ、図書館、地域の人びととの連携

1．研究課題について

アジア、アフリカに暮らす人びとは、地域の自然環境、コミュニティ内の社会関係、さらには外部との交流にあわせて、日々の生活に必要なもの（＝日用品）をつくりだしてきた。この研究では、ローカルな技術的実践とグローバルな環境変化や社会的な制度が交差する場としてのものをつくる身体（技法）に注目し、コミュニティにおける知（＝在来知）の共有と配分の過程を描き出すことによって、アジア・アフリカにおける持続型生存基盤の発展に寄与することをめざす。具体的には、①調査研究、②共同研究／協働、③研究発信の３点に留意して研究課題を遂行する。今年度は、②海外の研究機関との共同研究／協働についての可能性を模索することと③国際学会での発表を介した研究発信に取り組む。

2．派遣の内容

2013 年 2 月 28 日～3 月 25 日にかけて、エチオピア、アジスアベバ大学エチオピア研究所南オモ研究センター／博物館（South Omo Research Center(SORC)）において、来年度に実施予定の展示の準備をおこなった。今回の渡航は、今年度計画している研究活動のなかでも、②海外の研究機関との共同研究／協働についての可能性を模索することにかかわる。エチオピア起源の栽培植物エンセーテの特別展示の準備うちあわせにくわえて、南オモ研究センタースタッフとともに、常設展示の再編計画を議論したほか、博物館に所蔵予定のコレクションのカタログつくりを開始した。

3．派遣中の印象に残った経験や体験

今回の派遣期間中に、これからあらたに所蔵に加えるコレクションのカタログつくりに着手した。これらのコレクションは、アリとよばれる人びとのものが大半であった。これらのものは、現時点では SORC に管理所蔵する棚等が設置されていないため、市内にあるアリの学生たちの寄宿舎の一角に場所をかりて臨時で保管をしていた。カタログ作成に取りかかる前に、所蔵を予定している約 200 点の物質文化一点ずつをナンバリングし、スケールをふくめて写真を撮影した。

その際、寄宿舎の 50 歳代の寮監の方に、その名前や用途の聞き取りをおこなった。これらのものは、アリの人びとが暮らす地域のなかでも、北部にある標高が 2500 メートルほどの高地からはこばれてきたものであったため、その地域特有の形態をしたものについては、回答をえることができなかった。また、聞き取りの際に、10 代の学生たちもたちあうことがしばしばあったが、半分くらいのものをみたことがなかったり、名前を知らなかったりする場合があった。

上記のカタログつくりのほかに、博物館にもうけられている観光客向けの土産物スペースの改善にも

取り組んだ。この地域は、低地で遊動的な生活をいとなむ人びとと、高地で定住的な農耕生活を営む人びとに大別される。観光客の多くは、低地の遊動生活を営む人びとの地域に関心をよせている場合がおおかったため、今回の滞在中は、SORC スタッフとともに、おもに高地の定住的農耕民によってつくられた土産物の説明やディスプレイについてとりくんだ。研究者たちが発刊した民族誌などもおかれているが、観光客には、この地域全体を包括的に概観できるような、より一般むけの刊行物があるとよいとおもう場面が多々あった。

4. 目的の達成度や反省点

南オモ研究センター／博物館は、南部諸民族州南オモ県で唯一の博物館として、外国人観光客のほか、地域に暮らす人びとにとって、近隣にくらす人びとのことを知る文化的な施設である。2012 年の利用者数は外国人と地元の人びとをあわせて約 3000 人におよぶ。また、隣接している図書館の利用者数は、2012 年で約 4000 人におよぶ。このように外部からもそして地域内においても、文化的な施設としての結節点を担っているこの施設で、特別展示をおこなうことはさまざまな点でインパクトをあたえることとかんがえている。今回はその展示のために、地域の人びととの連携の仕方や展示物の準備、さらには期間中の文化的なイベントについても打ち合わせをおこなうことができ、その目的はほぼ達成できたといえる。これにくわえて、あらたに所蔵にくわえるコレクションのカタログつくりにも着手できた点も今後の活動において意義ぶかかったと考えている。常設展について、具体的な計画や活動に着手できなかったことが今回の反省点である。

5. 今後の派遣における課題と目標

特別展示に関しては、一定の成果をおさめることができた。その一方で、現在およそ 9 民族分の物質文化についての常設展示に関しては、棚に陳列するレベルをこえられておらず、今後改善すべき課題のひとつと考えている。ただし、すでに展示されている物質文化は、これまで SORC にかかわってきた海外の研究者と共同でとりくまれてきた部分があるので、SORC のスタッフを中心にしながら海外の研究者たちと連携して少しずつ改善できるようにとりくんでいくのが今後の目標である。

写真１　博物館に所蔵予定の物質文化

写真２　ナンバーをつけてインベントリーを作成し、スケールをいれて仮撮影をおこなった

写真３　博物館内の土産物の設置場所（右奥）におかれている製品説明等を設置した。常設展示（正面奥のショーケース）の再編についても検討した